

芸術振

大分県芸術文化振興会議会報

— も く じ —

新会長あいさつ—挟間正年……………	1
芸術文化基金、2年次を迎えて……………	2
辻英武氏を悼む・新人賞を受賞して……………	3
57年度芸術総会、本年度の事業……………	4
56年度決算・57年度予算・新人賞を受賞して……………	5
57年度新役員・事務局員名簿……………	6
第8回県芸術祭開催要項……………	7
大分県演劇のあゆみ(4)・文化ニュース……………	8

発行人・挟間正年 編集人・原尻 実

No.55 57・7

芸術文化と基金の 併行発展を願う

大分県芸術文化振興
会議会長

挟 間 正 年



大分県芸術文化振興会議は充足以来地域に浸透した県民芸術文化の発展を促進しつつ18年目を迎え、その象徴でもある県芸術祭は20周年を目前に控えております。この節目を機会に大分県の芸術文化の精華を大きく開かせようと、はやくも記念事業計画が準備委員会の充足によって始動がはじまりました。各ジャンルの平素の真摯な積み重ねを結集して県民の

前にその成果を発表するのも意義あることであり、また、会員各位が初心にかえり、本県文化活動を見つめなおす最良の機会でもあります。

昨年の県民オペラ中国公演につづき、今年は洋舞協会の後藤智江モダンダンススタジオの中国公演が9月に予定され、また、20周年を目前にした第18回県芸術祭開幕行事には県民演劇制作協議会が各ジャンルの協力を得て、初めて取り組むユニークなミュージカル「炭焼長者臼杵石仏物語」が上演され、閉幕行事には県民オペラを中心に「ジュニアフェスティバル」が芸術祭の終幕を飾ることになっております。期間を通じて加盟各団体もすでに計画が発表されており、20周年を控えて将に花咲かんとする意欲的な活動に心より敬意を捧げ、全会員と共に喜ぶところであります。

このように海外での公演も夢ではなくなり、また、各部門が協力し合ってよりよいものの制作気運も高まりつつある現在、この動きを更に大きく育て、本県芸術文化振興のためにも、その財政的裏付けとなる文化基金の早期達成が切実に望まれるところであります。

大分県芸術文化基金の現況は、各員各位と、理解ある関係団体の御協力により第1期(昭和54～56年度)は所期の目標を大きく上まわったが、第2期計画の初年度を迎えてその目標額が1.5倍となり、これまで以上の努力が必要となってきました。そのためにも全会員一丸となって、芸術文化の発展と併行して積極的に目標に向かって基金面にも意欲的な御協力を願うものであり、発展の度合いと基金は現状からして切り離すことのできない相互関係になっております。本年は両者併行発展の年としたいものであります。



脇 正人(自由美術)

芸術文化基金

第二次計画年度を迎えて

芸振会議事務局次長 堂 蘭 徳 昭

大分県の芸術文化発展の基盤を築くために、「大分県芸術文化基金」が発足してから第1次3カ年計画が終了し、いよいよ、後半の第2次募金3カ年計画が開始されます。第1次計画は、発足当初であり、関係者及び芸振加盟団体の積極的な募金活動と企業体等からの大口の募金にささえられて、目標額に対し138%の好成績をあげました。しかし、内容をみますと、企業体・個人一般の部は目標額を上まわりましたが、芸振加盟団体の募金額は目標の80%にしか達せず、しかも、年々達成率は下がり、56年度は、最も低い67%の実績に終わっていることで

す。このことは、募金活動の中心になるべき芸振加盟団体が、一部の加盟団体のみの募金に終わり、全団体のものになっていないことに原因があります。現に56年度は、32団体に過ぎません。

第2次計画（3カ年）の目標額9,000万円は、第1次計画以上の厳しい取り組みが要求されます。また募金達成年度の59年度は、芸振会議の20周年にも当たり、記念事業なども検討される予定です。今後の募金活動について、全加盟団体が一致協力し、目標の早期達成をめざして努力されるよう強く要請いたします。

状況(昭和57年3月31日現在)
第一次募金計画及び実際募金

対象別	年度 54・55・56年度分 合計		
	計画額	実際積立額	達成率
芸振加盟団体	15,000,000	12,121,864	80.8%
企業体	36,000,000	56,300,000	156.4%
個人・一般の部	9,000,000	12,190,108	135.4%
雑収入		2,302,730	
小計	A 60,000,000	B 82,914,702	C 138.2% A

左のうち 56年度分		
計画額	実際積立額	達成率
4,500,000	3,006,214	66.8%
12,000,000	18,400,000	153.3%
3,500,000	2,613,390	74.7%
	1,628,180	
G 20,000,000	H 25,647,784	I 128.2% G

第二次年次別募金計画

対象別	年後				第一次・第二次 合計
	合計	57年度	58年度	59年度	
芸振加盟団体	15,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	30,000,000
企業体	66,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	102,000,000
個人・一般の部	9,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	18,000,000
小計	90,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	150,000,000

私の創作は、まず汗を流すことから始まり、自然との対話の中で作品を形づくる。しかし、百姓と彫刻とのきりかえがなかなかうまくいかず二日も三日もかかってしまう。

師のない私にとって木は心のよりどころ、夕食のあと、倉の二階での読書がなによりも発想の栄養源となっている。美術書よりも意外と文学、とくに土の文学から作品のイメージが生まれる。また、制作後の一ぱいはことのほかうまい。

最近読んだ本の中に「人間の作為などは自然の流露の一滴でくずされる」これは、プーシキンの言葉であるが、作家にとっても自然相手の農民にとっても、いかに自分がちっぽけな存在であるか、いつも自然の流れの大きさを感ずる。

私にとっては、くにさきの野仏から、山梨県甲府を中心に広がっている「丸石神」、もっともっとさかのぼって縄文にいたる、構えない自然から生まれ育つ何ものかをさがしもとめているがあまりの遠さに苦心している。

野っばらのアトリエで今後ものんびりと制作活動をしていきたい。

(県美協会員・土の文学を考える会会長)

前会長の辻英武さんが五月になくられましたことは私たちの大きな悲しみであり、県民文化にとってもかけがえのない痛手です。

辻さんは県の農政や福祉で高名な方ですが、大学時代から作歌に熱中され、50余年の業績をもつ歌人・鶴見英之としてもよく知られていました。昭和40年に芸振会議が発足した時、もちろん辻さんは文芸部門の代表、会の中核メンバーとして参加され、私らもごいっしょに働くことになりました。会議は当時の社会教育課（のち文化課）が全県の芸術団体・地域文化団体に呼びかけて結成したのですが、最初は資金もなく、みんな手弁当で走りまわり、なんとか大分県の文化を発展させたいという一念で年々の芸術祭をもちあげ、機関誌や年鑑を出し、日常の芸振活動を広げていきました。

そのころ会議にもいろいろの要望があり、補助金の交付、芸術科教育の充実、美術・博物館の設置など県や県教委、議会に陳情をくりかえしましたが、歩くのはいつも勝手知った辻さんと私と二人づれでした。その辻さんにごむりに会長をお願いしたの51年から2年間ですが、当時体調が心配だったにもかかわらず、ほんとに郷土を愛し、文化を愛された辻さんは、無欲熱心に

の仕事をやって下さった、真に頭の下がる思いがします。もうひとつの思い出は、昭和45年度から県教委が学術文化芸術の分野における郷土先覚者シリーズを刊行することになり、芸振会議の全面協力を求められました。けっきょく正副会長の私と辻さんが会を代表して企画編集に加わり、文化課の人たちと10年がかりでこの仕事をやりました。先覚者20人の人選、執筆依頼、校正出版など少数で大変でしたが、結果は好評で、既刊の10冊は全部絶版になり、いま上製する巻を合本再版中です。ことしは下巻が出る予定ですが、監修者の辻さんが完成を見届けずに逝かれたことは、まことに残念です。

このシリーズで辻さんの書かれた大蔵永常と賀来飛霞は実に名文ですが、そのほかの歌集や評論集、福祉史等の遺著もすぐれたものです。これらを拝見し、今日の県文化活動の盛況を見て、私はつくづく辻さんの美しい人柄や郷土文化への純粋な献身を思い、ご冥福を祈らずにおられません。

辻英武氏を悼む 思い出の「郷土先覚者シリーズ」

大分県芸術文化振興会議顧問
米田貞一

第17回県芸術祭 新人賞を受賞して

青木由紀年



「未来仏」は、東半島の仏を見て歩いていて、たんぼの畦道に苔むした野仏や塔、煤けてま

黒になった仏像の尊容に心をひかれた。ながめてみると、古き人びとのくらしに郷愁が胸にしみ入りにさきの土に今もなお庶民信仰と、生活の香りを感じる。このような情景の中に一つの発想があった。

それは、ひとりの百姓が願いをこめてこつこつと刻んだと思われる小さな野仏たち……。百姓の私にはその素朴さの中で精神的な強さを感じここに今回の未来仏が生まれた。受賞したことは、ことさらうれしい。



狭間会長のあいさつ（婦人会館）

57年度芸術総会

6月29日（火）午前中の理事会に引き続き、午後1時より本年度の芸術会議の総会が開かれた。56年度の事業、決算、本年度の事業及び予算を満場一致で承認し、芸術文化基金について、今年度からはじまる第二次計画の見直しなどが話し合われた。また本年度は役員改選期にあたり、別表（P6）の通り役員を決定した。連絡を密にする意味から、芸館や合同新聞社から数名の役員さんに加わっていただき、より充実した活動をして行くことを確認し合った。

芸術本年度の事業の計画

第18回県芸術祭の推進

10月1日（金）～11月30日（火）を大分県芸術祭とし、県・芸術会議・合同新聞社の共催により、諸文化団体、市町村文化活動などをこの期間に集中的に行ない、県民文化の振興と芸術文化の質的向上をはかる。

市町村文化活動の振興

地域における文化活動の現状や芸術祭参加行事を調査し、地域文化の横の連絡を密にする中で文化諸活動の振興をはかる。

機関紙の発行

芸術会議機関紙「芸術」を年4回発行する。B5判、8頁、1回500部、55号は総会特集号とし、本年度の計画を中心に、他3回は前年に引き続き各ジャンルの特集として編集して行く。

年鑑の発行

大分県文化年鑑1982年版を発行する。各部門別の年間の活動状況、県芸術祭行事、ならびに県下の文化活動の年間のあゆみを記録し、あわせて芸術加盟団体、個人名簿

役員一覧等を掲載し、大分県における年間の文化活動の総記録的内容をもつ。B6判180頁、800冊、3月発行予定。

会議

芸術祭の運営、芸術文化基金づくり、各種資料の編集、発行、調査、研究、表彰等のために、事務局会、理事会、総会をもち、研修、協議を行なう。

大分県芸術文化基金

基金づくりの計画にしたがって、本年から2次の募金活動（57・58・59の3カ年）を行なう。特に芸術加盟団体の資格を検討、整理して、積極的にこの分野での募金に力を入れて行く。

協賛事業

第14回九州芸術祭としての58年2月の演劇第12回九州グラフィックデザイン展・第13回文学賞公募等を後援することにより、県内における芸術文化活動の振興と発展に協力する。

県芸術祭20周年記念行事準備委員会

2年先の20周年に向かって、記念行事を計画するための準備委員会を発足させる。

いう思いで迎えた十月一日の公演、そして十一月一日の中津公演も関係各位のご尽力で成功裡に済んでほっとした頃、思いがけなく「県芸術祭新人賞」受賞の知らせを受け、二重の喜びのはずなのですが、賞の重味というか、これから大変だという思いが先でした。新人賞はいわば、これから頑張れという県民の皆様への期待と励ましの賞ですから、頂戴するからにはもう後に引けない。これを契機として一層精進し、大分県民謡の普及向上、ひいては地方文化の向上に少しでもお役に立てるよう努力せねばと決意をあらたにいたしました。一朝一夕にはできあがらないのが芸の道ですが、伯母であり師である池田萬龍のあの素晴らしい音色に近づけるよう、それと、加藤先生の採譜された県民謡に良い三味線伴奏の手をつけられるよう音楽的センスを磨くことをこれからの目標に頑張りたいと思います。素朴で単調な県民謡に良い伴奏がついて、県内からやがては全国の人々に大分県民謡が沢山広まって行く。その礎になれたらさいわいです。

（民謡研究会・萬語会会長補佐）

56 年 度 決 算 書

収入の部

区 分	予算現額	決算額	差引増減額
補助金収入	870,000	870,000	0
県費補助金	870,000	870,000	0
会費収入	690,000	690,000	0
団体会費	564,000	564,000	0
個人会費	126,000	126,000	0
雑収入	306,510	304,061	△2,449
広告料	290,000	290,000	0
預金利息	16,510	14,061	△2,449
繰越金	78,490	78,490	0
合 計	1,945,000	1,942,551	△2,449

次年度へ繰越 1,942,551 - 1,938,630 = 3,921

支出の部

区 分	予算現額	決算額	差引増減額
賃 金	450,000	450,000	0
報 償 費	140,000	140,000	0
旅 費	80,000	79,420	580
需 用 費	1,120,000	1,117,300	700
印刷消耗費	1,090,000	1,090,000	0
食糧費	30,000	29,300	700
役 務 費	97,000	96,120	880
通信運搬費	90,000	90,000	0
手数料	7,000	6,120	880
使用料及賃借料	20,000	16,200	3,800
予 備 費	38,000	37,590	410
合 計	1,945,000	1,938,630	6,370

本 年 度 の 予 算 案

収入の部

区 分	予算額	前年度予算額	比較増減
補助金収入	870,000	870,000	0
県費補助金	870,000	870,000	0
会費収入	736,000	676,000	60,000
団体会費	600,000	558,000	△42,000
個人会費	136,000	118,000	18,000
雑収入	334,079	336,510	△2,431
広告料	320,000	320,000	0
預金利息	14,079	16,510	△2,431
繰越金	3,921	78,490	△74,569
合 計	1,944,000	1,961,000	△17,000

支出の部

区 分	予算額	前年度予算額	比較増減
賃 金	450,000	450,000	0
報 償 費	155,000	140,000	15,000
旅 費	60,000	60,000	0
需 用 費	1,144,000	1,146,000	△2,000
印刷消耗費	1,114,000	1,116,000	△2,000
食糧費	30,000	30,000	0
役 務 費	97,000	97,000	0
通信運搬費	90,000	90,000	0
手数料	7,000	7,000	0
使用料及賃借料	15,000	20,000	△5,000
予 備 費	23,000	48,000	△25,000
合 計	1,944,000	1,961,000	△17,000

開幕行事「ふるさと唄」の稽古が始まりました。開幕行事といえば大変な名譽なことであるし、大衆芸能であるが故に低俗芸能だと、ともすると邦楽界の方々に蔑視されがちな、民謡の一団体にすぎない萬謡会が担当することはとても意義深く、会員一同重い責任をひしひしと感じておりました。日曜ごとの朝から夕方までの練習。加藤先生から次々に渡される五線譜を、どのようにしたらいい三味線の手になるかあれこれ移調して考え、三味線譜に直すのも結構つらい仕事でした。もうあと一ヶ月余裕があればなあと



早いものでもう七月。思えば丁度去年の今頃から、芸術会館の会議室を使って加藤正人先生のご指導のもとに県芸術祭

池田 萬穂

新人賞を受賞して

第17回県芸術祭

本年度芸振役員・事務局員名簿

去る6月29日の総会において下記のように新役員が決定した。

役職名	氏名	団体名	住所	〒	TEL
顧問	井村 洋一		大分市		
"	河野 彰		大分市		
"	佐藤 義詮		別府市		
"	米田 貞一		別府市		
会長	扶間 正年		大分市		
副会長	辛島 武雄		大分市		
"	浜田九一郎		大分市		
"	真部 好		大分市		
"	宮崎 豊		大分市		
監事	小長 久子		大分市		
"	田村 卓夫		大分市		
理事	岩男 順	県美術協会副会長	大分市		
"	江藤 豊南	別府民踊百踊会事務局長	別府市		
"	遠藤 梢山	県三曲協会会長	大分市		
"	大崎 聡明	県美術協会副会長	大分市		
"	岡 博	大分市教委社会教育課長	大分市		
"	木村 成敏	県文化団体連絡協議会理事	大分市		
"	倉田 紘文	県俳句連盟理事	別府市		
"	菅 久	県芸振会議事務局担当	大分市		
"	園田 喜平	県民踊連盟副会長	大分市		
"	平 俊収	県立芸術会館副館長	大分市		
"	中沢とおる	県民演劇制作委員長	大分市		
"	中野 幸和	県職場音楽連盟理事長	別府市		
"	仲町 謙吉	県美術協会洋画部長	大分市		
"	野田 南剛	県美術協会副会長	大分市		
"	波多野義孝	県宣伝美術協会会長	大分市		
"	狭間 久	大分合同新聞文化部長	大分市		
"	花柳笹之丞	県日本舞踊連盟代表	大分市		
"	樋口 愁枯	県洋舞踊協会会長	日田市		
"	深田 光霊	日本詩道会会長	大分市		
"	丸岡 久	大分音楽友の会会長	大分市		
"	三河尻修二	県児童文化研究会会長	大分市		
"	宮崎寛一郎	大分合同新聞文化部長	大分市		
"	宮瀬香多士	大分合同新聞文化センター	大分市		
"	山住 久	県歌人クラブ事務局長	大分市		
"	脇 正人	県美術協会事務局長	大分市		
事務局長	原尻 実	県教委文化課課長	大分市		
次長	堂蘭 徳昭	県教委文化課課長補佐	速見郡		
"	藤原 嘉久	県 庁 雲 会 員	大分市		
"	十時 良	県美術協会委員	大分市		
事務局職	岩並 利夫	県教委文化課主幹	大分市		
"	佐藤 七夫	県教委文化課係長	別府市		
"	辛島 光義	県音楽協会会員	大分市		
"	日名子金一郎	県美術協会委員	大分市		
"	丸尾 輝彦	県立芸術会館庶務係長	大分郡		

事務局 大分市府内町3丁目10番1号 (〒870)

大分県教育庁管理部文化課内 TEL 0975 36-1111 内線 4272

5月28日の運営協議会で、57年度の芸術祭開催要項が次のように決まった。県教委、芸振会議、合同新聞の三者共催による県芸術祭も第18回を迎え、団体参加の増加と共に、質的にも高まりをみせてきている。本年度は開幕行事に10周年記念として県民演劇が初めて取りくむ、「豊後みゆーじかる」「炭焼き長者、白杵石仏物語」を10月1、2、3と3日間、昼夜6回公演を行なうのをはじめ、閉幕行事に、県民オペラ協会が、ジュニアフェスティバルとして、コーラス、オーケストラ、オペラともジュニアの部門でまとめた、「あまんじゃくとうりこひめ」など例年になく斬新な催しもので、話題を呼ぶものと思われる。その他、参加行事（特別参加行事）、協賛行事については、例年通り、広く参加を募集している、大要が決まっていれば、申込期日に遅れないように、県文化課の方に申し込んでほしい。要項、ポスターの作成上、申込み期日は8月5日（木）となっている。

第18回県芸術祭

開催要項決まる

期日・10月1日（金）～11月30日（火）

部 門

文芸・美術・音楽・能楽・舞踊・演劇・映画放送・
児童文化・生活芸術・総合・その他

行事の種類と実施方法

行事は開幕・閉幕・共催・参加（特別参加）および協賛行事とする。

- ① 開幕・閉幕行事——主催者が直接主催する行事
- ② 共 催 行 事——主催者と当該主催団体が共催する行事
- ③ 参加（特別参加）行事——参加規則に基づいて芸術祭に参加を希望するもので、芸術祭運営協議会が参加行事として認めたもの。
- ④ 協 賛 行 事——上記①②③に該当しない行事
 - ア 大分県芸術祭運営協議会規約および大分県芸術祭参加規約による。
 - イ 参加行事および協賛行事に要する経費は、当該主催者または主催団体が負担するものとする。
 - ウ 参加行事は、芸術祭主催者の後援名義の使用を認める。
 - エ 参加行事については、芸術祭ポスター、プログラムに掲載する。

頭 章

芸術祭に貢献し、芸術文化の向上に寄与したものに

昨年度の芸術祭賞等表彰式から



対し、次のとおり顕彰する。

- ① 芸術祭賞—芸術祭諸行事で特にすぐれているもの
- ② 功 勞 賞—芸術祭の充実と発展に功勞のあったもの
- ③ 新 人 賞—芸術祭の発表活動において、新人としてきわめてすぐれた発表を行なったもの
- ④ 感謝状
 - ア 特別感謝状—芸術祭の充実と発展に貢献したものの
 - イ 感 謝 状—芸術祭に参加し、芸術文化の向上に寄与したものの

そ の 他

参加申込みについては、定められた申込用紙に必要事項を記入し、57年8月5日（木）までに、県教育庁管理部文化課まで申込むこと。

参加行事は常時自主的な文化活動を続けているもので、芸術祭にふさわしい内容をもち、意欲的なものとする。

参加行事の可否については、芸術祭運営協議会で諮問の上、その結果を申込者に通知する。

参加行事は、ポスター、プログラム、案内状等に、「第18回芸術祭参加」と表示するものとする。

参加行事の主催者は、終了後すみやかに、事業報告書に関係資料を添え、文化課に報告するものとする。

れんさい

大分県演劇のあゆみ

(その4)

中 沢 とおる

戦後、全国をわかせたアマチュア演劇運動は、総括して自主演劇と呼ばれた。劇団名を呼称する現在のアマ演劇スタイルは、この二十年代までうまれていない。

職場演劇は、新劇とつながる東・西の日本リアリズム演劇協議会に参加することで、全国的なつながりをもったが、大分はその影響をうけなかった。

市町村コンクールから県コンクール、そして全国と、直線的につながる青年演劇コンクールへ、演劇活動家の情熱が急傾斜した。そのリーダーを個別に励まし、コンクールを立派に組織した陰の立役者は山本宗生であった。

青年演劇祭で山本の演出した「お祭佐平」(佐伯市)が、スマートな演出、流れるハーモニーで観客をうならせたのは、いまでも語り草である。

第一回全国青年演劇祭に大分県代表として参加した「踏切番小屋」(山香町)は、優秀賞を獲得し、演出をした笠口成人(電産演劇部)は、その功で第一回大分合同新聞社文化功労賞をうけた。

よく年、第二回全国青年演劇祭では、

岩津洋一郎作演出「肖像」(大在村)が最優秀になり万丈の気を吐いた。岩津は、NHK大分放送局の専属シナリオライターであった。山本は病気で佐伯に帰り、堤彦一がそのあとを継ぐ。

二十八年第三回全国コンクールでは、私の演出「明日を告げる鐘」(大分市滝尾)が優秀賞を受賞した。三年連続して全国のトップ賞をとった県は他県になく、自主演劇最右翼の県として全国的な注目を浴びた。私の作品は演劇雑誌「テアトロ」「悲劇喜劇」に掲載され、新劇界の大御所、土方与志が舞台芸術学院を、松原英治が名古屋演劇集団をつかって舞台化し、関東・中部の各都市で公演した。

この流れの中心にいたリーダーと、NHKの放送劇で活躍していた声優たちが集まってアマチュア劇団を結成したのが「つみ木座」である。初演は岩津が「夜の来訪者」(プリストリー作)、私が「しばてん物語」(野川泰亮作)を演出した(トキハ文化ホール)。昭和三十三年五月のことである。

(県民演劇制作委員長・芸振理事)

文化ニュース

◇7月20日～8月8日

大分県在住作家個展シリーズ…大分芸術会館

日本画、安部マユ子・油彩、佐藤昇・油彩、阿南英之・油彩、岡部忠之・版画、井上佐之助。

◇8月1日

第23回大分県短文学大会…別府つるみ荘

短詩型のジャンルを志す人々が集まり、創作活動を通じて、意見交換や交流の場とする目的で広く一

般からの参加を求めている。

◇8月1日

青少年芸術劇場 バレー公演…佐伯文化会館

◇8月7日

青少年芸術劇場 文案公演…津久見市民会館

◇8月8日

創作実験劇場 人形劇公演…大分芸術会館

◇8月10日～15日

大分二紀グループ展・大分国画写真展・リップの会展
…大分芸術会館

◇8月17日

舞台技術研修会(大道具)…大分芸術会館

◇8月17日～22日

大分自由美術展・'82大分平和美術展
…大分芸術会館

◇9月1日

こども芸術劇場合唱…竹田文化会館

◇9月3日～12日

後藤智江モダンダンス訪中公演

◇9月10日

移動芸術祭秋季公演 ミュージカル…中津文化会館

◇9月14日

松竹大歌舞伎 修禅寺物語、他…大分芸術会館

 (株)大分メンテナンス

大分市高城南町12-3

〒870-01

TEL 代表 51-0056